

東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所2・3号機における
事故時運転操作手順書の適用状況について（概要）

平成23年10月29日
東京電力株式会社

1. 実施内容

(1) 実際に実施した運転操作内容の整理

地震発生直後～海水注入の期間の今回の事故対応操作について、公表済みのプラントデータや報告書を確認し、原子炉の安全確保に係わる操作（止める、冷やす、閉じこめる等）を整理した。

(2) 事故時運転操作手順書の選定

既存の事故時運転操作手順書（事象ベース、徴候ベース、シビアアクシデント）について、想定している事故概要の確認等を行い、今回の事故対応で使用または参考にしたと思われる以下の手順書を選定した。

事象ベース 原子炉スクラム事故 主蒸気隔離弁閉の場合

事象ベース 外部系統事故 全交流電源喪失

シビアアクシデント AM（アクシデントマネジメント）設備操作手順

消火系（代替注水手順）

シビアアクシデント AM（アクシデントマネジメント）設備操作手順

不活性ガス系（耐圧強化ベント手順）

(3) 運転操作内容と手順書の比較

今回、実際に実施した事故対応操作と選定した手順書について、原子炉安全確保に関わる操作を比較し、手順の適用状況を整理した。

2. 適用状況確認結果

今回の事故対応において、手順をチェックしたエビデンスがないことから、事象に最も類似している事故時運転操作手順書と実際の操作内容を照合したところ、現時点では現場の状況などから、操作状況は問題がなかったと考えられる。

【参考】事故時運転操作手順書の使用方法について

事故対応にあたり、緊急を要する運転操作（停止操作等）では、事象収束を最優先とするため手順書の閲覧なしに初期対応を行い、事象がある程度落ち着いてから、実施した操作のチェックを行うこととしている。また、事故対応ではプラント状況に応じて臨機応変な対応が求められるため、手順書通りの操作が必ず行われるとは限らない。

今回、地震に伴う2・3号機の事故対応操作については、手順をチェックしたエビデンスがないこと、また津波襲来後の操作については既存の事故時運転操作手順書（シビアアクシデント）をそのまま使用できる状況ではなかった。

以上